

歯科医向け専門書 海外で高い評価

岩手医大歯学部部の千葉俊美教授（消化器内科）と山田浩之教授（口腔外科学）が企画編集した書籍「歯科医師のための内科学」の英訳版書籍が、海外の評価会社から最高位の五つ星評価を受けた。医師と歯科医双方の視点から全身疾患や歯科治療の注意点を解説した専門書で、高齢化で医療連携の重要性が増す中、2人は「医療従事者や学生らに広く活用してほしい」と思いを込める。

英訳版は、世界最大規模の学術書籍出版社シュプリンガー・ネイチャー社（ドイツ）が



企画編集した「歯科医師のための内科学」と英訳版書籍を手にする千葉俊美教授（右）と山田浩之教授

全身疾患、治療の注意点解説

2024年に出版。新刊を評価する海外のドゥーディーエントナープライズ社から▽歯科医や研修医ら幅広い読者を対象とした▽参考写真を多く掲載▽全身疾患と口腔症状の関連性を説明している▽エビデンスに基づいた正当な内容」と講評を受けた。

基になった書籍（医歯薬出版）は2人が企画編集して21年に発刊。歯科医を目指す学生向けにさまざまな疾病のポイントが分かる専門書を作りたいと全国の約110人の医師らが執筆協力した。

全322頁で、前半は貧血や呼吸困難の各症状が起こる背景を紹介。後半では循環器や呼吸器、がんなど各疾患別に加え、妊娠・授乳期などの患者の身体状況を詳しく解説し、歯科治療の注意点を個別に記載した。各疾患の最新の知見も盛り込んだ。

技術の高度化で医療を取り巻く環境が大きく変わる中、同大内丸メデイカルセンター・歯科医療センター長も務める山田教授は「口腔ケアをすることで、患者の手術後の体の状態が良くなったりもする。歯科医も内科的な知識を持つことは大事だ」と強調する。

同様の書籍の国内外の刊行は少ないとみられ、千葉教授も「専門書としての価値を海外で評価いただいた」と感謝。情報を更新するため改訂も検討しており「歯科医師だけでなく、高齢者施設の職員など幅広い方の役に立てばうれしい」と期待する。